

アルメニア在留邦人安全の手引き

2024年12月
在アルメニア日本国大使館

1 序言

海外における邦人及び我が国の権益は世界のいずれの場所であってもテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険があります。このような情勢を十分に認識し、海外安全情報及び報道等により最新の治安・テロ情勢等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに、状況に応じて適切かつ十分な安全対策を講じるよう心掛けてください。在アルメニア日本国大使館は「安全の手引き」を作成し、アルメニアに滞在される皆様がより安全な生活を送るためにどのような点に気をつけたらよいのか、何らかの事態に遭遇した際にどのように対応すればよいのか等を纏めました。皆様の安全対策の一助として活用していただければ幸いです。

2 アルメニアの治安状況

アルメニアとアゼルバイジャンはナゴルノ・カラバフの帰属をめぐり長年にわたり対立し、1994年の停戦合意以降も小規模な衝突が繰り返されてきましたが、2020年9月2月27日、ナゴルノ・カラバフとその周辺地域で1994年の停戦以降最大規模となる軍事衝突が発生して、民間人を含む多数の死亡者が確認される甚大な被害が発生しました。同軍事衝突自体は同年11月のロシアの介入による停戦合意で一旦は収束しましたが、その後も2021年及び2022年にアゼルバイジャン軍がアルメニア国境に侵攻し、今もなお当該国境地域を占拠しています。

さらに2023年9月には、ナゴルノ・カラバフに対するアゼルバイジャン軍の軍事行動により、同地域に居住していた10万人を超えるアルメニア系住民がアルメニアに避難しています。2023年12月、アルメニアとアゼルバイジャンは、和平条約を締結する意思を再確認する共同声明を発出していますが、未だ解決には至っていません。

また、本年2月にはアルメニア南部シュニク州の国境沿いにあるネルキンハンズ村において、アゼルバイジャン側から銃撃により4人のアルメニア人兵士が死亡するという事件も起きています。そして、その後も、両国間の緊張状態は継続していますので、今後とも散発的な衝突や越境者の拘束等が発生する可能性は排除されません。つきましては、目的の如何を問わず、アゼルバイジャンとの国境周辺地域に近づくことは絶対に避けてください。

首都周辺及びその他の地域については、本年5月に反政府活動家らの抗議行動により、市民や警察官が負傷する事件が発生し、多数の拘束者も出ています。以降においても、エレバン中心部の他、アルメニア全土で反政府抗議行動が散発しており、過激化する可能性は排除

できません。

3. アルメニアにおける犯罪発生状況

(1) アルメニアにおける一般犯罪発生状況

2023年における犯罪登録件数は40,666件で前年比8.1%増加しています。2017年時には20,284件であり6年間で発生件数が2倍となっています。全犯罪の中ではスリ、置き引き、空き巣、車上荒らし等の窃盗が一番多く、9,600件発生しています。また、首都エレバンにおける2023年の犯罪登録件数は20,231件で国内の発生件数の約半数を占めています。

(2) 邦人にかかる事件・事故の発生状況

2019年には、乗り合いバス内で日本人観光客がズボンのポケットを切り裂かれる窃盗未遂被害が発生しており、ホテルにおける置き引き被害も発生しているため、十分な注意が必要です。

4 防犯の手引き

(1) 基本的な心構え

海外では日本国内と同様の権利保護や救済を受けられる訳ではなく、国・地域によっては頼るべき治安機関も信頼性に問題がある場合もあります。このような状況でまずは自分たちの安全は自分たちで守るという心構えが大切になります。日常生活においては以下の点に注意して慎重な行動を心掛ける必要があります。

(2) 住居の防犯対策

住居を選択する際には、安全性を考慮した選択が必要です。防犯対策を強固に施し、この家は入りにくいと思わせることが重要です。以下に注意すべき点の一例を記載します。

- 住居の選定に当たっては、まず信頼できる家主の選択、警備員や地下駐車場の有無等、セキュリティ面のチェックを行う。
- マンションであれば狙われやすい1階、2階、最上階は可能な限り避け中層階を、独立家屋であれば、敷地外周壁が堅牢で容易に侵入できない住居を選定する。
- 玄関ドアはドアスコープまたはカメラ付きインターホンが設置された強固な鉄製扉か、2つ以上の鍵が設置されているか、1階の窓には鉄格子や忍び返しが設置されているか、退避路があるかなどの点についてもチェックする。
- 窓や扉にセンサーを取り付け、サイレンやフラッシュライトを点灯させ不法な侵入を防ぐのも有効。
- 窓や出入り口付近に犯罪者が身を隠したり、侵入の足場となるような樹木がある住居

は避ける。

- 訪問者に対しては、ドアを安易に開けることなく、必ずドアスコープまたはカメラ付きインターホンで相手を確認した上、ドア越しに用件を確かめる。また、警察官や警備員等に扮した強盗もいるので十分に留意する。
- 原則として、素性の分かっている者以外は自宅に招き入れない。来客等には事前に日時指定の約束を入れるよう、平素から依頼しておく。
- 合鍵を使った空き巣被害を避けるため、入居時に入口の鍵は全て交換する。
- 多額の現金は、できる限り銀行に入金しておくなど自宅以外の場所に保管するようにする。
- 不在にする期間をむやみに他人に漏らさず、照明やラジオ等をつけた状態で留守だと思わせない等の工夫をする。
- 外出中は、たとえ使用人といえども安易に鍵を預けない。
- 在宅時、就寝時にも戸締まりを確実に行う。
- エレベーターで同時に乗り込んでくる人物には注意し、不審だと感じたら一度見送る。

(3) 外出時の防犯対策

下記の点に留意して、防犯意識を持った行動を心掛ける必要があります。

- 玄関や窓の施錠を確実に行うとともに、金庫、貴重品保管庫の施錠も怠らない。
- 外出先、帰宅予定時間等を家族や同僚に知らせ、携帯電話等で連絡が取れるようにしておく。
- 目立たない服装を心がけ、注目を浴びるような派手な行動は控え、行動のパターン化は避ける。
- 物乞いに注意する。
- 若者の集団（特にスキンヘッドやフーリガン風の集団）や酔っぱらい等を見かけたら絶対に近づかない
- 一般に危険と思われる場所、例えば若者で賑わうスポーツ・バー、外国人があまり行かない市場や遊戯施設、飲食店などには立ち寄らない。
- 自分の車には見知らぬ人を絶対に乗せない。
- タクシーを利用する際には、予約したものを利用する。
- デモ、集会等を見かけたら近付かず速やかにその場を離れる。
- 夜間の外出はなるべく避ける。どうしても外出する場合には、公共交通機関の利用は避け、複数で行動する。
- 特に夜間においては、地下道や人気の少ない場所は通行しない。

(4) スリ・強盗・詐欺等に遭わないための注意事項

下記を参考に犯罪に対する予防策を講じてください。

- 貴重品は必ず身体に装着するとともに、現金はハンドバックや鞆、腰のポーチ等にまとめて収納することは避け、少量ずつ分散して所持する。
- バッグや鞆は体から離さず、歩行中はタスキ掛けにする、前側にかけるなど、盗難防止の工夫をする。レストラン等でコートや上着を脱ぐときには、これらに現金や貴重品を入れておかない。
- 財布や現金を見られないように工夫する。
- 車両は、できる限り管理人のいる駐車場に駐車し、路上駐車は避ける。また、駐車中は盗難防止装置を作動させるとともに貴重品を車両内に放置しておかない。車内に鞆等の金目のものが見えると、ガラスを割られ盗難されることがある。
- 駐車する際はもちろんのこと、走行中であってもドアは必ずロックする。また走行中であっても貴重品の入った鞆等を外部から見える位置に置かない（信号待ちの際、ドアを開けられ、助手席に置いていたバッグが盗難される事件が散発している）。
- 管理の行き届かない場所に設置されている自動現金支払機（ATM）はカードのデータを盗まれて悪用されるおそれがあるので、絶対に使用しない。また、カードで支払いを行う場合、カードを店員に預けてしまうとスキミングされる恐れもあるので、カードは必ず自らの手で専用読み取り機にかざして支払を行う。
- 見知らぬ人から飲み物やクッキー等のお菓子を勧められても安易にこれを飲食しない（いわゆる睡眠薬強盗の可能性あり）。
- けん銃やナイフ等を使用した事件に直面した場合には自分の生命と身体の安全を第一に考えることが大切。金品を出し渋ったり、抵抗したりすることは極めて危険。慌てて現金を出そうとしてポケット等に手を入れると、犯罪者は武器を取りだそうとしていると勘違いしかえって危険です。両手を挙げて無抵抗の意志を示す。落ち着いてゆっくり行動することが重要です。

5 テロ・誘拐対策

アルメニアではこれまで邦人を対象とするテロ・誘拐事件は発生していません。しかし、テロ・誘拐はいつ発生するか分かりませんので、平素から予防策を講じておくことが必要です。また、周辺国で発生したテロ等がアルメニアの治安情勢に影響を及ぼす可能性は排除できません。したがって、現地治安情勢の変化に迅速かつ適切な対応がとれるよう、常に注意を払うことが必要です。

また、シリアやチュニジアにおいて日本人が殺害されるテロ事件やパリにおける同時多発テロをはじめ、I S I L（イラク・レバントのイスラム国）等のイスラム過激派組織又はこれらの主張に影響を受けている者によるとみられるものを含むテロが世界各地で発生していることを踏まえれば、日本人、日本権益がテロ等の様々な事件に巻き込まれる危険があります。このような情勢を十分に認識し、誘拐、脅迫、テロ等の不測の事態に巻き込まれることがないよう、海外安全情報及び報道等により最新の治安・テロ情勢等の関

連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに、状況に応じて適切で十分な安全対策を講じるよう心がけてください。

6 交通事情と事故対策

アルメニアの道路の状態は、大通り以外は道路の至る所に凹凸があったり、穴だらけだったりすることが多く、良好とは言えません。信号機が故障していたり、停電により点灯していないこともしばしばあります。また、運転マナーも日本と比べて非常に悪く、無理な追い越し、割り込み、車線変更等が頻繁に見られ、方向指示器やブレーキランプが点灯しない、サイドミラーがない場合も多くあります。歩行者も信号無視や横断歩道のない場所での横断が日常的ですので常に注意が必要です。特に道路を歩いて横断するときは横断歩道を利用し、たとえ青信号でも左右をよく確認して横断するようにしてください。また、道路を走って横断することは走行車両から認知されにくく、危険であり、自身の存在が走行車両によくわかるよう焦らず横断するようにしてください。夜間は目立つ服装や反射素材を身に着けるなどして交通事故被害を未然に防ぎましょう。

なお、アルメニアでは我が国発行の国際運転免許証（道路交通に関する条約（1949年9月19日）に基づくもの）で車両を運転できないほか、日本の運転免許証からアルメニアの運転免許証への切り替えはできないため、当地で新たに運転免許証を取得する必要があります。

7 緊急事態への備え

以下の準備をお願いします。

（1）連絡体制の整備

3か月以上在留する方は大使館への在留届の提出、住所、電話番号等に変更があった場合には速やかに変更届を提出するようにしてください（インターネットでの電子届出が可能です。詳しくは、<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html> でご確認ください）。また、家族間等においても緊急連絡が常にとれるようにしておいてください。

（2）避難場所の確認

自然災害、内乱、クーデター等の緊急事態に備え、危険な場所には近づかないよう注意するとともに、緊急事態に応じた一時避難場所（ホテル等）を検討しておいてください。また、アルメニア政府が設置する避難所情報にも注意してください。

（3）携行品及び非常用物資の準備

緊急時には、旅券、現金、貴重品など、必要最低限の物品が直ちに持ち出せるよう保管しておいてください。また、非常用物資として食料・飲料水、医薬品の備蓄、避難場所の確認を平素より準備してください（食料は最低10日分、飲料水は1日1人3リットルが目安）。

8 緊急時の行動

(1) 情勢の把握

大使館からの連絡、テレビ・ラジオ等を通じ情報収集に努めてください。

(2) 大使館への通報等

ご自身の安全、けが等の有無及び緊急事態の状況について大使館に通報してください。

(3) 国外への退避

事態が悪化し、各自の判断により、自発的に帰国、第三国等へ退避される場合には大使館へ連絡してください。また、大使館から国外への退避等の連絡があった場合には、その要請に従ってください。大使館より退避手段等についてお知らせします。

9 緊急連絡先

○消防：１０１

○警察：１０２

○救急車：１０３

○ガス：１０４

○緊急対応サービス：９１１

○ナイリ・メディカルセンター：＋３７４－１０－３２－２２－１１

○エレブニ・メディカルセンター：＋３７４－１０－４７－１１－００

○在アルメニア日本国大使館

住所：Babayan street 23/4, Yerevan, 0010, Republic of Armenia

電話：＋３７４－１１－５２－３０－１０

夜間・休日用緊急携帯電話：＋３７４－４１－４３－４１－４５

※アルメニア国内からは＋３７４を取り、代わりに０をつけます。

10 簡単な緊急時のアルメニア語及びロシア語表現

アルメニア語・ロシア語

○泥棒：

ゴガツァフ・ウクラーリ

○助けてください：

オクネツェック・パマギーチェ

○警察：

ヴォスティカヌチューン・パリーツィヤ

○警察を呼んでください：ミリツィヤ カンチェック・パザヴィーチェ パリーツィユ

○救急車：

シタップ オクヌチューン・スコーラヤ ポーマシ

○彼を捕まえてください：

ブルネック スラン・パイマーイチェ イェヴ